

信仰によって力を得

2025年5月4日

ヘブル人への手紙 11章32～34節

序：旧約歴史後期の6名の信仰の人

バラク、ギデオン、エフタ、サムソン、サムエル、ダビデ（時代順）

士師たち（さばきつかさ）4名

主の霊を受けた3人

I. バラク 士師記 4・1～24

シセラとの戦いに遣わされた

女預言者デボラに同行を求めた（信仰によって）

主がシセラの軍勢をかき乱し、逃れたシセラを討ち取ったのはヤエルという女性

II. ギデオン 士師記 6・11～8・32

ミデアン人との戦いで、「イスラエルを救う指導者となれ」と告げられ、尻込み

御使いが主から遣わされた証拠：供え物が燃え尽くされた

主の命令に従い、バアルの祭壇、アシェラ像を切り倒した

バアルに従う者は激怒、殺そうとするが、父のとりなしで無事

名前がエルバアルに変わり、さらにエルベシエテに変わる

ミデヤン人との大合戦に備える

兵士の数を32000人 → 300人に減らす（勝利を人間の功績としないため）

おじけづく者たちを帰らせた

水辺で口手を当てる水を飲んだ注意深い者300人で戦いに勝利

戦利品で作ったきらびやかなエポデが偶像礼拝の対象

ギデオンの存命中の40年間は平穏、死ぬとすぐバアル礼拝に戻って、墮落

III. エフタ 士師記 11・1～40

ギルアデ人の勇士（ギルアデと遊女の間に生まれた）

アンモン人との戦い 長老たちに加勢を依頼され、主の霊により前進

勝利して帰還したとき、最初に迎えに出て来る者を全焼のいけにえとする誓約

彼を出迎えたのは、悲しいことに、彼のひとり娘。父は娘を金で贖い、一生独身を守らせた。

自分たちに知らせずアンモン人と戦ったことに腹を立てたエフライム人が、戦いを仕掛けてきた エフタはギルアデ人とともに戦って勝利 6年間士師であった

IV. サムソン 士師記 13・1～16・31

ペリシテ人の脅威にさいなまれていたイスラエル

ダン部族 神の御告げにより、長く子のなかったマノアの子として生まれた

ナジル人として聖別 (1)禁酒 (2)汚れたもの（死体など）に触れない (3)髪を切ら

ない しかし、この3つの誓いをすべて破り、神の祝福を失った

デリラの手練手管にはまって屈服 最後には自分の力の秘密を明かす

髪を剃られたサムソンは、簡単に捕らえられ、目をえぐられ、鎖に繋がれた

ペリシテ人の神ダゴンの集会で、見せ物として引き出されたサムソンは髪が伸び、力が戻っていた 宮の柱に手をかけ、渾身の力をこめて宮を破壊 そこにいた大勢のペリシテ人を殺し、自分も死ぬ

V. サムエル サムエル記 I 1～16章

イスラエルの最後の士師であり、最初の預言者

エルカナとハンナという敬虔な両親から、祈りの子として生まれる

幼い時から祭司エリにあづけられ、祭司の務めを始める

奪われた神の箱の帰還、偶像の神々を除き主のみ礼拝するよう勧告

